

昭和電工株式会社 2019年通期 決算説明会 Q & A 要旨

日時：2020年2月14日（金）10:00～11:30

説明者：代表取締役社長 CEO 森川 宏平

取締役常務執行役員 CFO 竹内 元浩

*内容は、開催日時点の情報に基づいております。

【全社】

Q 1株当たり130円の配当額は日立化成統合前ベースか。統合後は配当方針に関して変更はあるか。

A 130円は日立化成との統合前ベース。統合後については、まだTOB前で配当方針の話ができる状況ではないが、株主重視の姿勢は変えない。2020年末発表予定の新中期経営計画で提示したい。

Q 日立化成(株) TOBの進捗状況は。

A 各国の独禁法当局による審査に大きな遅れはなく、本日（2月14日）現在では中国でもほぼ影響ないと聞いている。

Q 新型コロナウイルスの影響の上期織入と当社各拠点の状況は。

A 新型コロナウイルスの影響を想定し、当上期の業績予想の策定段階で約50億円の営業利益を減額した。当社では主に石油化学、アルミニウム、化学品セグメントに影響が出ると想定している。

半導体向けなど当社の足元の生産・受注量にほぼ変化はなく、今のところ出荷の影響は出ていないが、中国内の後工程の部品組立て等が滞ることを懸念。

る一過性の受払差の影響もなくなり定常状態に戻る見込みで、営業利益500億円程度を出す事業になれるか状況を見たい。将来的にも個性派事業になれる可能性が高い事業だと見ている。

Q 事業環境として、欧州にインド品電極が流入している影響や米国、東アジアはどのような状況か。

A 欧州へのインド品の流入はある。欧州の顧客はTier1品質の良さがまだ理解されていないと考えており、今は将来の種を蒔く時期だ。米国の需給は堅調だが、アジアはやや厳しい。

Q 電極の在庫調整は上期中に一巡するのか。

A 電極の在庫調整一巡は、2019年末時点では2020年上期で終わると見ていたが3Q末まで遅れる見通しに変えた。

Q 閉鎖を検討しているドイツ拠点と大町の違いは。

A ドイツ拠点は電極同士をつなぐ継手に特化した工場。大町では電極本体と継手の両方を生産しており、これまでの米国拠点に加え、今後は欧州拠点にも継手の供給を図っていく。

以上

【無機セグメント】

（黒鉛電極）

Q 電極事業は2017、18年の過去最高レベルの状態が一過性であり、2020年が常態と見るべきでは。今後の構造改革について、どう考えているのか。

A SGL統合時、かなり悪い状況下でも最低100億円の営業利益が出せる事業にしたいと説明したが、今が正にその状況だ。2021年以降は顧客在庫の適正化に加え、2020年に想定す

*本資料の将来見通し等に関する記述は、今後以下のような様々な要因により実際の業績と大きく異なる結果となる可能性があります。

- ・経済情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極製品等の需要動向および市況、為替レート
- ・法改正や訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、為替レートや国産ナフサ価格など予想の前提につきましては、2020年2月13日発表の弊社決算短信をご参照ください。